

中央教育審議会 初等中等教育分科会 教員養成部会（第71回）会議資料

和歌山県立桐蔭中学校・高等学校 校長 岸田 正幸

「大学と教員委員会の養成・研修の分担・接続について」

－和歌山における初任者研修の取組を中心として－

1 大学と教育委員会との連携の必要性

- 「教員としての資質能力は、養成・採用・現職研修の各段階を通じて形成されていくものであり、その向上を図るための方策は、それぞれの段階を通じて総合的に講じられる必要がある。」（教育職員養成審議会「昭和62年12月」答申）
- 「養成と採用・研修との連携の円滑化について」（教育職員養成審議会「平成11年12月第3次答申」）
 - ・ 大学と教育委員会等との連携方策の充実
 - 「大学と教育委員会等とのこれまで以上の連携を進めるため、大学と教育委員会等との間で、組織的・継続的・相互的交流を含めて体制づくりを図ることが必要である。」
 - ・ 「大学と教育委員会等との連携のための協議会等については、これまでの情報交換を中心とした連携を更に進めて、教員の養成・採用・研修の改善を図るための具体策を策定・実施する取組を通じて一層連携を深める方策を、都道府県段階等で検討することが必要である。」

2 和歌山大学教育学部と和歌山県教育委員会の連携

- 連携協議会発足（平成11年12月～）
- 具体的な連携協議の視点
 - ア 養成・採用・研修を見通した視点での連携
 - ・ 養成及び採用といった観点での話し合いはそれ以前からもたれていたが、それをより組織的に
 - イ 共同研究及び共同事業という視点での連携
 - ・ 現行学習指導要領の告示による「総合的な学習の時間」の創設
 - ・ 高等学校での教科情報と情報教育の在り方の模索
 - ・ 中高連携、高大連携の在り方
 - ・ 教育相談機能の充実
 - ・ 特別支援教育（現名称）の在り方
 - ・ 社会教育主事講習の実施
 - ウ 連携協力が必要な体験事業等
 - ・ 教育実習、介護体験実習
 - ・ へき地（複式学級）教育実習
 - ・ 教育ボランティア

◎ 連携の在り方を探っていた時期

これまでも個人や個々の事業レベルでの連携があったが、それを組織的・包括的なものにし、連携の在り方を探っていた時期。

- ジョイント・カレッジによる連携協議会の新たな枠組み（平成17年度～）
 - ア 研究科教育（3コース）
 - ・学校マネジメント力量形成
 - ・科学教員養成
 - ・地域文化コミュニケーター教員養成
 - イ 学部教育（2講座）
 - ・教育の現状と課題
 - ・教師力養成特講
 - ウ 地域連携（8事業）
 - ・中高連携事業（連携型中高一貫教育）
 - ・高大連携事業（出前講義）
 - ・高校非常勤教頭派遣事業（県立星林高校への非常勤教頭派遣）
 - ・実習、体験学習実施事業（教育実習、教育ボランティア、スクールボランティア、ミュージアムボランティア、インターンシップ）
 - ・共同研究実施事業（実習センター研究プロジェクト）
 - ・理科教育振興事業（実験工作キャラバン隊）
 - ・文部科学省委託事業
 - ・地域共同研究事業（教育フォーラムの開催）

- ◎ 教員養成・現職研修での連携はじまる
県教委職員やベテラン教員を派遣しての研究科及び学部での講義を開始する。
現職教員の学びの場としても活用する。

- 実践的地域共育推進事業の開始（平成21年度～）
 - ア 事業の内容
和歌山大学教育学部と附属校・公立学校との連携による実践的研究。学校の教員と大学の教員が研究テーマを設定して、共同研究を行う。50程度のテーマに70～80程度の近隣の学校が参画

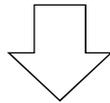
- ◎ 校内研修の活性化に大学がかかわる
各学校が設定した「実践研究課題」に大学教員がかかわることによる校内研修の活性化。

3 教員養成・採用・研修の一体化の現状と方向性

(現状)



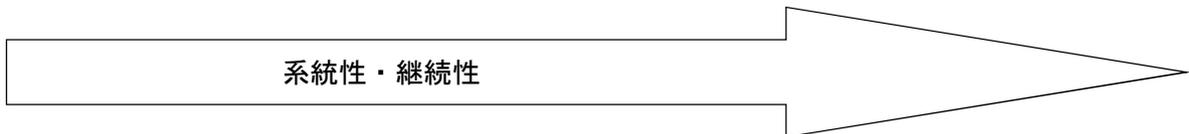
- ・相互批判的意識が残る。
- ・それぞれの守備範囲の中で物事を考える。



(方向性)



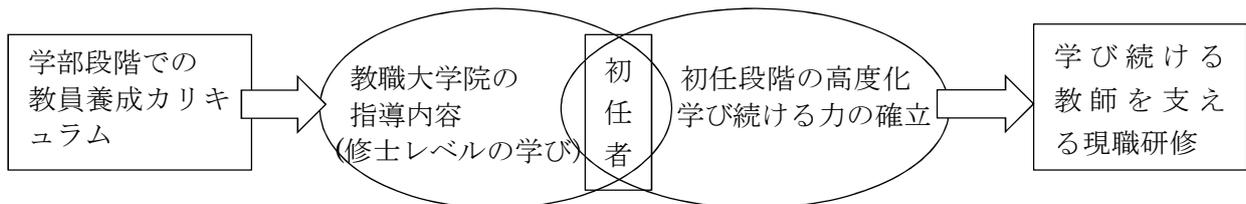
系統性・継続性を認識しながらそれぞれの果たすべき役割を考える。



両者が共通理解すべきコンセプトは、「学び続ける教師像の確立」

4 和歌山での初任者研修の高度化モデル事業の取組（平成25年から）

【初任者研修の和歌山モデル】



(教員養成から現職研修への継続性と大学・教委の連携・協働体制の構築)

【現行の初任者研修との相違点】

現行初任者研修	初任段階研修の高度化モデル事業
現職研修の一環として実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに、幅広い知見を得させることを目的とする。	理論と実践の架橋を通じた教科や教職についての省察により、教員生活全体を通じて主体的に学び続ける基礎的な力を身に付けさせることを目的とする。

【協力校及び配置人員】

(平成25年度)

和歌山市 小学校2校(各2名配置)、中学校2校(各2名配置)

岩出市 小学校1校(2名配置)

紀の川市 小学校1校(2名配置)

和歌山県 特別支援学校1校(6名配置) 計18名

(平成26年度)

和歌山市 小学校3校(各2名配置)、中学校1校(各2名配置)

岩出市 小学校1校(2名配置)

紀の川市 中学校1校(2名配置)

和歌山県 特別支援学校1校(4名配置) 計16名

【指導体制】

- ・和歌山大学教育学部大学院教員8名(各校1名担当)
 - ・プロジェクト教員3名(小・中・特別支援)(専門性の高い退職校長)
 - ・県教委交流教員1名
 - ・その他、和歌山大学教育学部教員が必要に応じて参画
-
- 教員養成から現職研修へと生涯にわたる職能成長をどう支えるかという俯瞰的視点に立った初任者研修カリキュラム
 - 教員養成から現職研修へと、そのジョイント的期間である初任者研修は、大学と教育委員会との連携・一体化という点で、物理的にも意識面でも有効な研修となる可能性が高い。
 - 初任者配属校に大学教員がかかわることにより、校内研修の活性化が図れる。
 - 教える初任者研修から学び続ける資質を育成する初任者研修への転換を図るに、大学教員の果たす役割は大きい。

第2回合同カンファレンス

—「学び続ける教師像」の具現化を目指します！！—

子どもやクラスの姿を語り、課題を設定！

5月15日(木)、和歌山大学教育学部第2会議室において、第2回合同カンファレンスを実施しました。

まず、初任者は7グループに分かれ、4月からの「授業づくり」、「学級づくり」、「子どもの姿」を中心にクラスの姿を出し合いました。そして、ファシリテーターを務める大学教員や参加している各校の指導教員の先生からアドバイス等をいただきました。その後、それぞれの初任者が事前にプレゼンシートにまとめた研究課題と研究目的・方法についてグループ内で発表し、「なぜこの研究課題を設定したのか」「今後の研究をどう進めていくか」などについて先生方や他の初任者と協議を行い、最後に一人ずつ全員が発表しました。



初任者の一人は、「自分の考えを表現し、学び合う児童の育成」を研究課題に設定し、その理由として、「学級内は、自分の考えを積極的に発表できる児童がいる一方で、考えを表現することに対して自信のない児童や、筋道を立てて考えることが苦手な児童がいます。また、課題に応じて、グループ、ペアなどの学習形態を取り入れ話し合いや相談の機会を与えることがありますが、活発に話し合うグループもあれば、意見がなかなか出ないグループもあるのが現状です。そこで1年間かけて、『自分の考えを表現できる児童』を増やし、学び合いを通して学習を深めていけるような学級をつかっていきたいという理由から本課題を設定しました。」とグループカンファレンスでは、学び合うためには個人思考をしっかりと行うことから表現ができることに繋がることと指摘いただき、まだまだ段階を踏んで学び合うことに繋げていかねばならないと感じました。」と力強く発表しました。



初任者全員がそれぞれの研究課題と設定理由を発表した後、久保富三夫教授より「今後、大学教員で一人一人の先生方の研究課題について表現等を精査するとともに、今日のグループカンファレンスでの話し合いを受けて、修正も必要になってくると考えている。」「今後、先生方の各種研究会に参加したり、私たちの先輩方が苦闘して研究してきた論文等を読んで、一人だけで苦悩するのではなく先輩や先人に学ぶことにより研究を進めていってほしい。」とまとめが述べられました。

子どもと先生がいっしょに考える「よりよい生き方」～道徳の時間を通して～



午後は、貝塚市立木島小学校長の川崎雅也先生が、道徳についての講義と模擬授業を行って下さいました。川崎先生は、教材に「はしのうえのおおかみ」を用い、中心発問に時間を費やし、子どもたちの意見をどう深めるかについて具体的に授業をして下さいました。次に、「ネット将棋」という現代のこどもの置かれている状況にマッチした教材を用い、初任者が生徒になり、さらに深く道徳の授業方法について掘り下げて下さいました。

初任者からは、「道徳は、『よりよい生き方』を子どもと一緒に考えていく授業だということを学びました。模擬授業では、①主人公の生き方がどこでどう変わったか。②変わった時、主人公はどんな気持ちであったのか、なぜ変わったのかといった2つのポイントを中心に授業をしていただきました。ポイントが絞られているので、すごく深く考えることができ、道徳の授業を初めて楽しいと感じることができました。」「生徒達の発言に対して、何を基準にして授業を進めていくのかが分からなかったのですが、模擬授業を通して生徒の発言に共感することが大事なのではないかと思いました。今週、早速道徳の授業があり『教室は間違るところだ』という教材を扱いました。生徒達は次々に自分たちの意見を言い、最終的には授業を受ける際のルールまで決めることができました。」などの感想が大学に寄せられ、早速授業実践に取り入れている様子がわかりました。



パネルディスカッション「特別活動について」～優れた実践から学ぶ～



午後の後半は、藤戸台小学校の山東眞紀子先生、紀之川中学校の永田佳子先生、紀伊コスモス支援学校の溝端英二先生を迎え、パネルディスカッション「特別活動について」というスキルアップ講座を行いました。それぞれの校種で優れた実践経験を持つ3名のパネラーより「仲間作りや学級づくりで大切にしてきたこと」を中心に、豊富な実践が報告されました。

溝端先生は、「特別活動～私の大切にしてきたこと～」というタイトルで、「①一人一人が認められていることを実感する②みんな違うよ、違うみんなが集まって、一緒に活動する③みんなわかって動ける環境設定」の3つのポイントを示し、特別支援学校での教育実践を報告して下さいました。次に、永田先生から、「子どもたちが誇りに思える学級づくりを目指して」というタイトルで、「あなたがいてよかったという人になってもらえればいいな(紀之川中学校の校訓)」という願いを込めてクラス経営をしている報告を披露して下さいました。そして、「一年間通じてどんな子どもに育てたいかという強い思いを持つことが大切であり、学級開きの時に必ず子どもに伝えている。」「子どもたちの気持ちを引き出し子ども一人ひとりが元気になるような教室の環境作りが大切」など、掲示物の工夫や、指導のポイントを強調されました。最後に、山東先生から「どの子も自分の思いを発表できるクラスづくりを目指して」というタイトルで、「朝の会や帰りの会、特別活動など学校生活全般を通じて人前で発表することへの抵抗感を減らし、自己肯定感を高める工夫をしている。」というお話があり、工夫された掲示物やユニークな独特の指導の様子を披露して下さいました。

初任者からは、「3人の先生に共通していたことは、意図的な取り組みが子どもたちの力を引き出しているという点です。私もすばらしい先生方のよいところを真似ながら、意図を持った特別活動の取り組みをしていきたいです。」「一番驚いたのは掲示物です。掲示物で教室があんなに明るく楽しい雰囲気をつくり出せるということを改めて学びました。」などの感想が大学に寄せられました。



初任者研修高度化モデル事業2年目がスタート

和歌山大学教育学部と和歌山県教育委員会は、昨年度全国で初めて取り組んだ初任者研修高度化モデル事業を、今年度は、新規初任者教員16名を対象にスタートさせ、4月3日(木)に、第1回目の研修会を和歌山大学教育学部で開催しました。

開会の永井邦彦教育学部部長の挨拶では、「この初任者研修高度化モデル事業は、平成24年8月に出された中央教育審議会の答申に基づき、『学び続ける教師像』を具現化する取組として全国的に注目を集めており、昨年度は全国の大学から訪問調査が相次いだ。昨年12月の中間報告会でも多くの成果を発表できた。和歌山大学としては、今年度も含め、この高度化モデル事業の2年間の成果を平成28年度設置予定の教職大学院につながる研修にしていきたい。」と、この事業の将来性に向けての抱負を語りました。



続いて、県教育委員会 田村光徳 学校教育局長の挨拶では、「この高度化モデル事業は、これからの和歌山県の初任者研修制度に一石を投じるものとなる。手を上げて応募した小中学校や特別支援学校に勤務する16人の仲間がじっくり語り合いながら切磋琢磨してほしい。皆さんの成長に心から期待している。」と希望を膨らませている16名にエールが送られました。

「経験で飯食うな！ 学び続けよ！」 —岸田正幸桐蔭高等学校長が講義—



続いて岸田正幸桐蔭高等学校長(前和歌山県教育委員会学校教育局長)が、「教員免許はライセンスかサーティフィケーションか!」という問いかけから始まる講義を行い、学校課題の複雑化・多様化、教師や学校への信頼の揺らぎの背景等と、その改善のための国の動きを説明された。また、教師という職業が自律性の高いものであるが故に、「経験だけで飯を食う」ことを戒め、「学び続けろ!」と強調されるとともに、「教育委員会と大学との連携による初任段階での研修の高度化」というこのモデル事業のねらいが、中央教育審議会答申に基づくものであることを分かりやすく説明されました。さらに、現行の初任者研修制度と比較してこのモデル事業で育てたい資質について解説し、「このモデル事業では初任者を1年間でどんな姿に育てたいかをイメージしてプログラムを作っている。昨年度の18名が成果報告書の表紙の写真で『私たちは学び続けます!』とにこやかに語りかけているように、生涯学び続ける教師になるための資質を身につけてもらいたい。」と激励の言葉をいただきました。

2年目研修と合同—ICT活用を図るタブレット端末での授業実践研修—

午後からは、和歌山大学教育学部の豊田充崇准教授が、この高度化モデル参加者全員が使用するタブレット端末を使って、初任者や担当教員にSNSを使った教員向け情報交換サイトへの書き込み方法や、アプリケーションソフトを使っての授業実践例などを教える講義と演習を行いました。今後各自がこの端末を用いて情報交換や教育実践、成果物の記録を行い、カンファレンスに持ち寄って発表するという高度なICT活用を進めています。2年目研修の先輩がメンターの役割を果たし、スムーズに演習が行われました。



先輩からのエール!

午後の最初には、2年目の先輩、山崎小学校の岩井健人教諭から、1年間受けた初任者研修高度化モデルについてのプレゼンを行いました。初任者からは「すばらしいプレゼン力で昨年度の研修について話してくれました。私も人前で堂々と話せるようになりたいと思いました。また、教員として学び続けるために、『実践』『振り返り』『自ら考え』『気づき』『改善する』のプロセスをいつも頭実践していきたい」と、大学に感想が寄せられました。

グループワークで2年目メンターが活躍!

午後の最後の研修ではKJ法を用いたワークを行いました。各校種ごとに8つのグループに分かれ、初任者が今の不安・心配事を書き出し、それに2年目の先輩がメンターとして答え、大学教員がアドバイスやコンサルテーションをする新しい形式を取りました。初任者からは、「グループ協議の中で、2年次研修の先生たちからアドバイスをたくさんいただき、これから何をどのようにすればいいのかという漠然とした不安が解消されていった。1年後、2年次の先輩たちのように、たのもし先生に成長できるよう、改めてがんばろうと決意を固めた。」と、2年目研修の先輩が1年目の研修を糧にメンターに成長し、効果的に研修したことが伺える感想が大学に寄せられました。



参加した初任者・2年目研修者の感想から

- ・目を輝かせるようなタブレット端末を貸していただき、教材提示の可能性を学びました。視覚教材の提示によって子どもが授業に集中でき、自分で触って解決するという過程が意欲を高めることになるんだろうなと思いながら、私もタブレットに夢中になっていました。こういった機器を利用して、子どもが興味を惹き付けられる授業実践ができるよう、考えていきたいと思います。
- ・高度化モデル事業や教師という仕事について、不安に思う点も多かったが、その不安にすぐにアドバイスをくれる2年目の先輩方の姿を見て、この研修のすごさを強く感じた。意見を引き出す力、進行する力、まとめる力、結論を導き出す力、またそれを発表する力など、1年間の研修を通して、さまざまな壁を乗り越えたからこそ、培われた力なのだとことをひしひしと感じることができた。また、団結力もすごく強く、同じ目標を持った仲間と色々な活動をしていき、この研修が終わっても、悩みを共有できるような関係を築きたいと感じた。これから、心強い2年目の先輩方に助けてもらいながら、「学び続ける」という姿勢をしっかりと身につけていきたい。
- ・昨年は、初任ということもあり、右も左も分からずただ必死に毎日を過ごしていたが、今回のグループワークでは、昨年度を振り返り、学級経営で特に大切にしなければならないことや、昨年度の自分に足りなかったことなどが見えてきて、初任者にアドバイスをするだけでなく、自分自身について、「今年度はこうしたい」という目標がはっきりしてきた。自分のこの1年の経験を振り返り、今後の課題を明確にする良いきっかけになったと感じている。

平成26年度 和歌山大学初任者研修高度化モデル合同カンファレンス計画表

回	日時	合同カンファレンス・スキルアッププログラム				カフェタイム	
第1回	4月3日 (木)	9:10-9:20	9:20-10:20	10:20-12:00	13:00-14:30	14:40-16:10	16:10-16:45
		和歌山大学教育学部第2会議室			和歌山大学教育学部第1会議室・第2会議室		
		①挨拶 永井教育学部長	②講義 岸田学校教育局長 「高度化モデル事業に期待すること」	③自己紹介、スタッフ紹介 ④オリエンテーション ⑤ガイダンス	⑥講義・演習 「タブレット端末を利用した授業実践について」	⑦先輩からのエール ⑧協議 グループワーク 「学び続ける教師とは」	⑨質疑応答
第2回	5月15日 (木)	9:10-10:40	10:50-12:00	13:00-14:40	14:50-16:10	16:10-16:45	
		和歌山大学教育学部第2会議室			和歌山大学教育学部第2会議室		
		授業づくり ①グループカンファレンス「子どもやクラスの姿を語り、課題を設定する」小・中・特支	②研究課題発表	④演習「道徳の模擬授業」	⑤パネルディスカッション「特別活動について」	⑥ガイダンス ・特別支援教育に学ぶ ⑦課題研究、質疑応答	
第3回	6月19日 (木) 8:20集合	9:10-10:20	10:30-11:20	12:30-15:30	15:40-16:00	16:00-16:45	
		紀伊コスモス支援学校				紀伊コスモス支援学校	
		①学校概要説明、校内見学	②初任者主指導の授業参観	③研究協議と特別支援教育スキルアップ講座	⑤ガイダンス ・道徳の模擬授業 ・課題解決講座1	⑥課題研究、質疑応答	
第4回	7月25日 (金)	9:10-10:40	10:50-12:00	13:10-15:20	15:30-16:00	16:00-16:45	
		和歌山大学教育学部第2会議室			和歌山大学教育学部第2会議室		
		①討論・発表「1学期の実践を省察する」	②ICT教材の効果的な利用について	③課題解決講座1(大学教員による実習)	④ガイダンス ・夏季宿泊研修 ・課題解決講座2	⑤学級活動に活かすレクリエーションについて協議 ・課題研究、質疑応答	
宿泊研修第5・6回	8月7日 (木) ～ 8月8日 (金)	9:00-9:30	9:30-11:30	12:30-14:30	14:40-16:45	19:00-21:00	
		シーサイドホテル「観潮」					
		①開会挨拶 諸連絡	②実践省察講座(1)ラウンドテーブルin初任研高度化モデル	③道徳の模擬授業	④初任研高度化モデルメンバーによるレクリエーション		
		9:00-10:30	10:40-11:40	11:40-12:00			
		シーサイドホテル「観潮」					
		⑤演習「ビデオ研究授業と研究協議1」	⑥討論・発表「2学期への心構え」	⑦諸連絡 閉会挨拶			
第7回	9月11日 (木)	9:10-12:00		13:00-15:20	15:30-15:55	15:55-16:45	
		附属図書館マルチルーム・教育学部第2会議室			附属図書館マルチルーム・教育学部第2会議室		
		①課題解決講座2(大学教員による実習)		②講義・演習「研究課題について深める(大学教員に問う)」「(大学教員による中間的なコンサルテーション)」	③ガイダンス ・研究授業(中学校)	④課題研究、質疑応答	
第8回	10月23日 (木)	9:10-12:00		13:00-14:50	15:00-16:15	16:15-16:45	
		〇〇中学校			〇〇中学校		
		①学校概要説明	②中学校教育の授業改善スキルアップ講座	③授業参観と研究協議(1)	④研究協議(2)	⑤ガイダンス ・研究授業(小学校) ・成果発表会	⑥課題研究、質疑応答
第9回	11月27日 (木)	9:10-12:00		13:00-14:50	15:00-15:30	15:30-16:45	
		〇〇〇小学校			〇〇〇小学校		
		①学校概要説明	②小学校教育の授業改善スキルアップ講座	③授業参観と研究協議(1)	④研究協議(2)	⑤ガイダンス ・成果発表会 ・2学期の振り返り ・ビデオ研究授業2	⑥成果発表会に向けての準備 ⑦課題研究、質疑応答
第10回	12月6日 (土)	9:10-12:00		13:00-17:00			
		Big-U(田辺)					
		2年間の成果発表会(教育フォーラムに合わせた)(2年次研と合同)					
第11回	1月6日 (火)	9:10-12:00		13:00-15:50	16:00-16:20	16:20-16:45	
		附属図書館マルチルーム・教育学部第1.2会議室			附属図書館マルチルーム・教育学部第1.2会議室		
		①討論・発表「2学期の実践を省察し3学期への心構えをつくる」		②演習「ビデオ研究授業と研究協議2」	③ガイダンス ・課題解決講座3 ・関係機関との連携について	④課題研究、質疑応答	
第12回	2月12日 (木)	9:10-12:00		13:00-15:20	15:30-15:55	15:55-16:45	
		和歌山大学教育学部第2会議室			和歌山大学教育学部第2会議室		
		①課題解決講座3(大学教員による実習)		②パネルディスカッション「つくる、つなげる、つづける」	③ガイダンス ・課題研究成果発表交流会 ・成果報告会	④課題研究、質疑応答	
第13回	3月5日 (木)	9:10-12:00		13:00-14:30	14:30-15:00	15:10-16:45	
		和歌山大学基礎教育棟G203,G207			和歌山大学基礎教育棟G203,G207		
		①課題研究成果発表交流会	②1年間の振り返りと2年目に向けての計画	③成果報告会	④ガイダンス ・2年次研修、3年次研修について	⑤課題研究、質疑応答	

(注)学び合う、学び続ける教師、授業実践力のある教員の育成、というコンセプトから合同カンファレンスの内容を検討

* 赤字は2年目研修と合同